

文部科学省「平成17年度特色ある大学教育支援プログラム」

より高い現代的な教養教育をめざして

福井大学 共通教育センター

文部科学省「平成17年度特色ある大学教育支援プログラム」に採択された福井大学文京キャンパスにおける教養教育の取組を紹介します。

教養教育の目的(平成5年制定)

特定の分野に偏ることなく、広く学問の知識や方法を授け、将来、総合的な判断力と行動力をもった健全な社会人として自己を制御するとともに、専門教育を通して学んだ知識や技能及び学術等の成果を広く社会に還元できるような人間形成を目指す。

この取組は、学生がより**高い現代的な教養を、自主性をもって身に付けるために、平成11年度からキャンパス単位**(教育地域科学部、工学部、教員数:約300名、学生数:1年次から3年次まで約2,200名)**で実施してきた教養教育です。**

取組の特徴は次の通りです。

1. 地方大学で特に深刻な学生の多様化に配慮し、学生を高校から大学の勉学・生活へスムーズに導入するため、**大学教育入門セミナー**を開講しています。
2. 複合的、学際的な教養教育科目を**現代的に編成**しています。
3. 教養教育の目的の達成と学生の**修学意欲**を学年進行と共に**促す独自の履修制度**を設けています。
4. 教養教育として高度な幅広い視野を目指した**副専攻制度**を設けています。
5. 学生の学ぶ動機づけを目指し、社会人と共に学ぶ生涯学習**市民開放プログラム**を実施しています。
6. 共通教育センターを中心に、**全教員が支える確固たる実施組織**を備えています。

以上の6つの特徴を具体的に説明します。

1. 大学の勉学・生活へスムーズに導入するための**大学教育入門セミナー**は 1年生前期の**2単位必修科目**です。

9回 **個別授業** 全教員による少人数教育

学生に **自分を考え、自分を探す場** を与えると共に、
専攻分野の自覚と自立を促がします。

6回 **共通講義**

図書館
総合情報処理
センター

上手な
利用法

保健管理センター

健康と生活習慣
心と健康

社会人講師
安全な生活
賢い暮らし
ボランティア
委員会
ISO14001
セクシャル
ハラスメント

学長 副学長 学部長 講話 大学、学部の理念・目的、学ぶことの意義

入門セミナーは全学生に共通な講義と、各コース・課程・学科に分かれて行う個別授業からなります。

個別授業では、教員紹介、研究紹介、討論、OBによる講演、研修合宿、地域訪問、会社見学等が行われています。

個別授業に対する学生の満足度は、平成12年度73%、平成16年度は80%でした。

次のような導入教育も、連携して行われています。

AO入試合格者に対するスクーリング
大学独自の入学前教育
入学時の英語・数学プレースメントテスト
高校教育経験者による補習授業
習熟度別授業

また、次の制度があります。

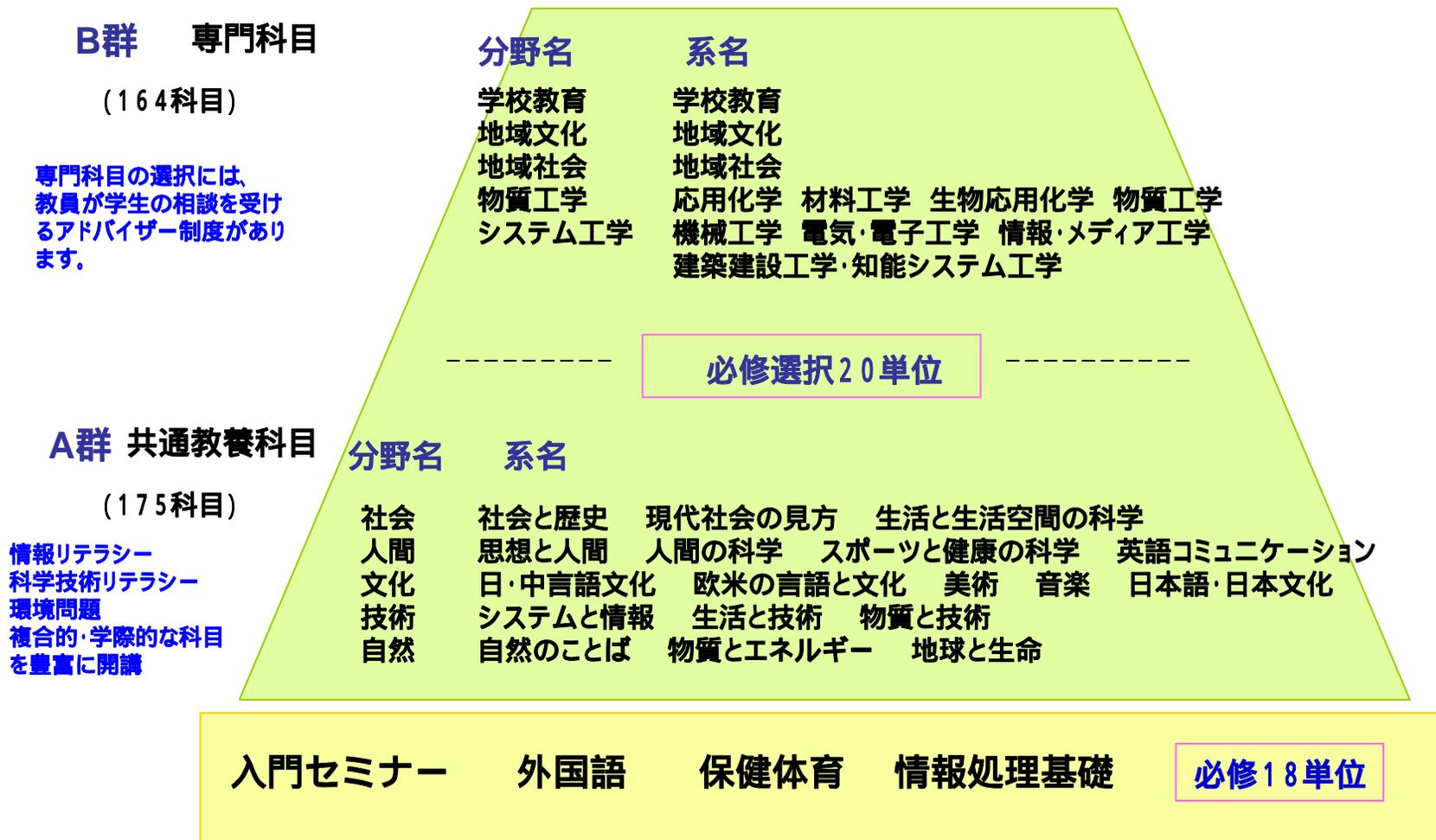
個別に指導する助言教員制度
全教員のオフィスアワー制度

大学教育入門セミナーの構成

大学評価・学位授与機構からは、**助言教員制度**と共に、**特色ある取組**と評価されています。(平成15年3月)

2. 複合的・学際的な現代社会に配慮した豊富な教養教育科目を現代的に編成しています。

教養教育科目は、教養教育のために開講されている科目A群と、専門科目の一部を他専攻・他学部の学生に開放している科目B群からなり、それらは内容によって分野に、さらに分野は系に分類されています。



教養教育科目の構成

実施状況

平均のクラスサイズは約50名を目指していますが、表1は、新たに開講された環境・学際・技術・情報関連科目の受講者が特に多く、学生の強い支持を示したものです。

また、受講者が1年から3年まで一様に分布し、学生がそれぞれの自覚に応じて選択受講していることがわかります。

B群(他専攻、他学部の専門科目)の受講者数は年間延べ約700名に達しています。

資料1 B群(専門教育・副専攻科目)受講登録科目数・受講者数

年度	14		15		16	
	科目数	受講者	科目数	受講者	科目数	受講者
前期	28	250	35	255	26	222
後期	36	475	43	485	36	443
合計	64	725	78	740	62	665

情報処理教育に対する学生の満足度は旧課程(平成10年度まで)では30%でしたが、新課程では71%が「適切である」と答えています。

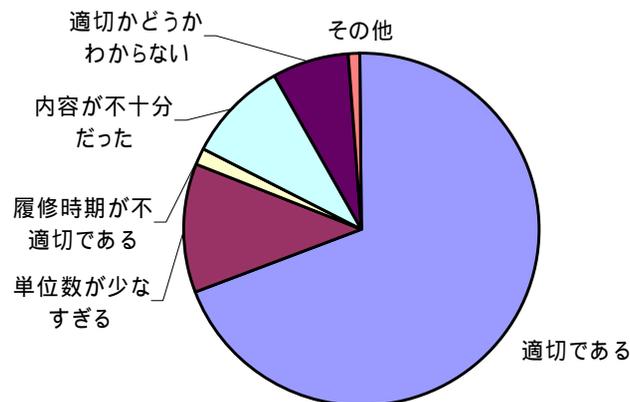
現状に不満な学生に対応するために、18年度からアドバンスドコースを開講します。

大学評価・学位授与機構からは各科目群は、教養教育の目標と十分に関係付けられた配置がなされており、優れていると評価されています。(平成15年3月)

表1 科目と受講者数

H16年度前期

科目名	1年	2年	3年	4年	合計
環游科学	42	42	33	3	120
自然史と生物	15	42	63	30	150
地球の進化	61	86	48	5	200
日本海地域の自然と環境	28	77	44	6	155
科学技術のおもしろさ	75	6	5	1	87
脳と運動	32	55	32	2	121
くらしの化学	41	45	33	1	120
金属の科学	20	19	34	19	92
システム工学序説	48	28	19	10	105
データベースシステム入門	4	34	56	21	115



資料2 平成15、16年度「情報処理基礎」履修者の満足度71% (共通教育センター報告書、平成17年3月、対象944名)

3. 修学意欲を学年進行と共に促す独自の履修制度

4. 高度な幅広い視野を目指した副専攻制度

教養教育科目の20単位を、均等履修、集中履修、自由選択履修に分け修得します。

この履修制度は、低学年で特定の専門に偏ることなく広く学問に触れ(均等履修)、学年進行に伴い、学生の自覚を促がし、自分の専攻と異なる分野への関心(集中履修)が高まるように工夫されています。

副専攻制度は均等履修を除く10単位を一つの系から修得した場合に、その系を副専攻として修得したことを認定する制度です。

この制度は全国に先駆けて始められました。

4 年

3 年

2 年

1 年

履修制度

一つの系から10単位
副専攻修得

自由選択履修 4単位

集中履修
A + B群の1分野から6単位

均等履修 A群 5分野 各2単位 計10単位

助言教員制度 アドバイザー制度 オフィスアワー制度
が、学生の科目の選択を補助します。

実施状況

独自の履修制度と、科目の選択に対するきめ細かい制度のために、平成12年度の調査では、希望科目を履修できないことに対する学生の不満が80%に達してしまいましたが、工夫を重ね、平成16年度には**70%の学生が満足するよう**になりました。

副専攻の修得率は、全学生の約20%です。自分の専攻とは異なる様々な系の副専攻を修得しています。

平成16年度の調査では、1、2年生の約60%の学生が、副専攻修得を目指していることが分かっていますので、現在も修得率を高める工夫を行っています。



資料3 副専攻修得者数

系名	入学年度	H11年	H12年	H13年	H14年
	卒業年度	H14年	H15年	H16年	H17年(予定)
地域と歴史		2	2	0	0
現代社会の見方		8	6	10	6
生活と生活空間の科学		0	1	1	1
思想と人間		5	4	5	4
人間の科学		21	11	6	7
スポーツと健康の科学		5	5	1	1
英語コミュニケーション		5	4	0	2
日・中言語文化		3	11	6	7
欧米の言語と文化		7	9	7	6
美術		6	5	3	4
音楽		1	2	2	3
日本語・日本文化		1	3	4	5
システムと情報		11	24	11	19
生活と技術		3	7	8	6
物質と技術		6	5	15	9
自然のこぼ		4	4	3	8
物質とエネルギー		11	8	9	17
地球と生命		36	28	23	42
電気・電子工学		3	0	0	0
建築建設工学		1	1	0	2
副専攻修得者合計		139	140	114	149
入学者数		637	623	638	639
副専攻修得率(%)		21.8	22.5	17.9	23.3

大学評価・学位授与機構からは、履修制度は、副専攻制度と共に特に優れていると評価されています。(平成15年3月)

5. 社会人と共に学ぶ生涯学習市民開放プログラム

社会貢献、社会への説明責任と共に、
入学時の学生の勉学の動機付けを目的
として、前期123科目、後期141科目を、
1クラス約5名を限度として、社会人の受
講に開放しています。

この制度は、平成14年度に全国で
初めて導入されました。

社会人受講登録科目数・受講者数

年度	14			15			16		
	科目数	受講者数		科目数	受講者数		科目数	受講者数	
		延べ人数	実人数		延べ人数	実人数		延べ人数	実人数
前期	46	87	62	44	88	68	54	103	70
後期	39	62	42	38	79	59	48	90	61
合計	85	149	104	82	167	127	102	193	131

過去3年間で受講者の延べ人数は509人(実人数 362人)に達し、平成16年度には同窓会も組織されました。

6. 全教員が支える確固たる実施組織

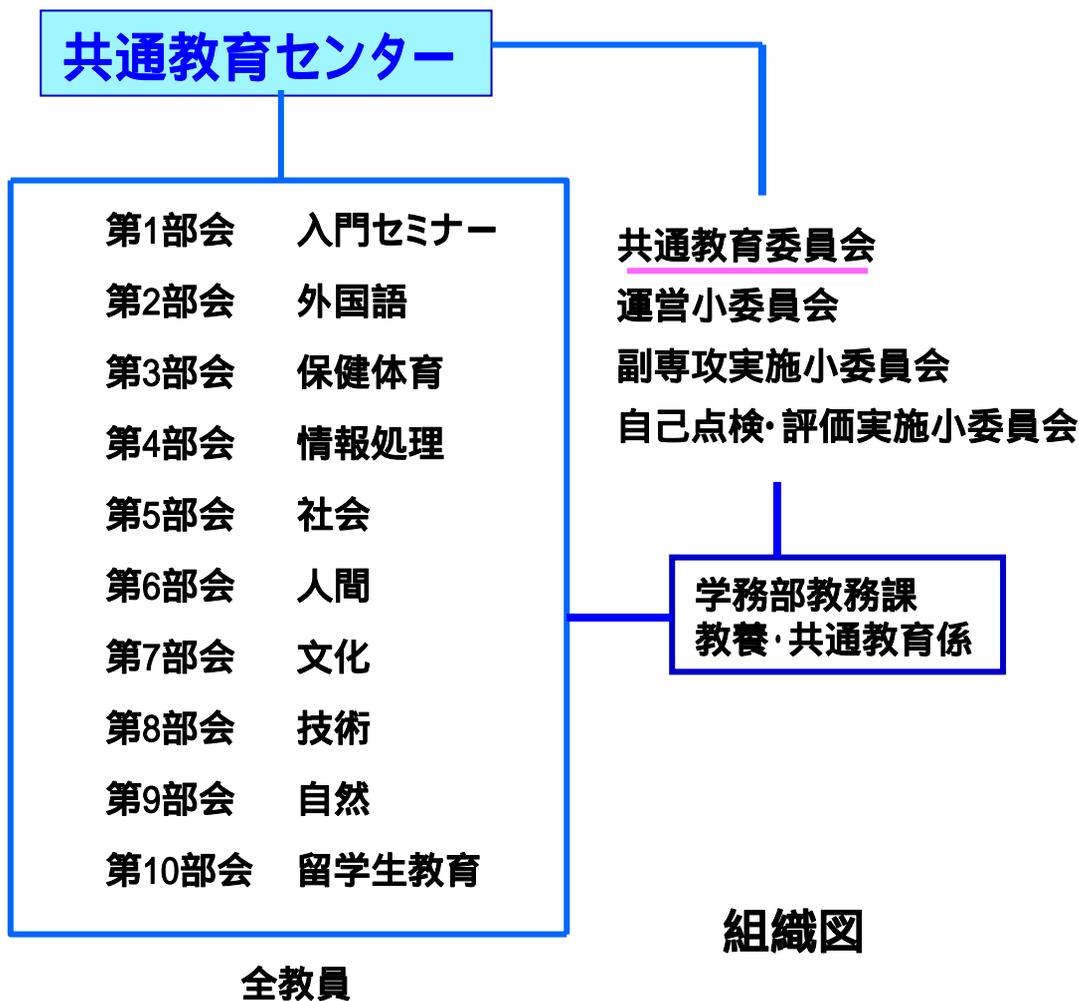
教養教育を担う共通教育センターは、教育内容に応じた10の部会で構成されています。

全教員が一つ以上の部会に所属し、部会長と幹事を中心に、毎年色々な形で、教養教育を担っています。

センター長、副センター長、各学部代表、各部会長からなる共通教育委員会が教養教育に関する全ての決定権をもっています。

発足から5年が経過した平成16年度には、自己点検・評価を行い、体制をさらに強化しました。

共通教育センターの充実は、福井大学中期目標・計画の重点事項の一つです。



大学における教養教育は、受験から解放された学生が、自分をみつめ、自分に気付き、人間が精神的な豊かさのために学ぶことを知る人生最初のチャンスでもあります。今後も常に、新たな教養教育の構築を目指して真摯な努力を続けて行きたいと思います。

発行年月日 平成17年10月1日
福井大学 共通教育センター
〒910 - 8507 福井市文京3 - 9 - 1
問合せ先 0776 - 27 - 8627
福井大学学務部教務課
教養・共通教育係